

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（小学校・中学校）

区分	No.	学校名	1)被害状況	2)避難行動			3)安否確認活動と保護者への引き渡し		
			人的被害状況	地震発生直前の状況（避難行動）	(1) 初期行動	(2) 1次避難行動	(3) 2次避難行動	引渡し	安否確認
小学校	①	釜石小学校	・児童：全員無事 ・教職員：全員無事	・学年末短縮授業のため、午後1時には下校となっていた。	・居残り児童10名は、教室待機 ・「大津波警報発令」後、すぐに避難所開設の準備に取りかかる。 ・校舎内外の点検、表示、避難所とすべき多目的ホールにマットやストーブを運ぶ。 ・多目的ホールでは足りず、保健室や教室を避難所に開放 ・自主防災組織の倉庫から毛布を出す。（避難してきた中学生も手伝う。）	・これまで防災教育で学んだことを基に、各自避難	・3月26日（土）内陸へ一時避難（11名）愛真館へ	3月12日朝開始。3月13日午後完了	
	②	白山小学校	・児童：1名死亡（帰宅後） ・教職員：全員無事	・学童と近隣の児童が校庭で10数名遊んでいた。この日は期末短縮授業日で午後1時30分下校だった。	3月11日（金）14時46分 地震発生 ・宮城県沖を震源とする地震発生。震度6弱 マグニチュード9.0揺れた直後に停電。通信網不通。職員室より校庭の児童に座るよう指示	15時20分 大津波襲来 ・地震の揺れが落ち着いてから、職員13名全員校庭に避難（教諭1名・事務職員1名年次、支援員1名は帰宅） ・校庭は、地割れ数か所 ・大津波警報発令 ・学校校庭から、嬉石地区が津波に飲みこまれる光景を目の当たりにする。	15時50分 避難者 ・校庭に避難者が増えてくる。 ・一度は体育館避難を考えたが、耐震構造ではないため、コンピュータ室・図書室・カモメ学級・フレンドルームを開放する。職員は、職員室に避難する。 ・校長がメガホンで避難者に呼び掛ける。 ・避難者の世話及び避難所運営が始まる。 ・津波に流された人の手当をする。（衣服など）怪我はしていない。（フレンドルーム） ・強い余震が続く。	※11日18時10分頃から開始。数名の児童、家の人が引き取りに来て引き渡す。	3月11日開始。3月18日完了（病院から、残り1名の児童が大丈夫らしいという情報を得たため）
	③	平田小学校	・児童：全員無事 ・教職員：全員無事	・東日本大震災当日は午前授業で、午後は校庭で遊んでいる児童及び学校隣の児童館にいる児童合わせて25名がいた。その他の児童は帰宅していた。	・大きな地震が収まってから、25名全員校庭に集め点呼をとり、無事を確認した。 ・その後、校舎3階に避難したが、天井からの水漏れと余震が続いていたので三陸鉄道の平田駅に避難した。 ・2時間ほどして寒くなったので上着を取りに校舎へ戻り、また、平田駅へ戻った。	・暗くなってきたので、校舎に戻り3階図書館に移動し避難した。停電、断水の状況であったが、学校に泊まることにした。 ・津波は昇降口の手前で止まった。職員で手分けをして体育館からマット、プールからトイレ用の水を運んだ。 ・学校にある懐中電灯、ロウソク、ラジオを全部集めた。地域の方々10名前後が学校へ避難してきた。その方々も3階の図書室に避難してもらった。	・19時頃になって消防団が来校し、旧釜石商業高校体育館に移動を勧められ、海岸付近の道ではない細い道を通り旧釜石商業高校体育館に移動した。 ・移動の際には、学校にある飲料水、ガスボンベ、電池、灯油を軽トラックで運んだ。 ・旧釜石商業高校体育館の避難所には200名ほど集まっていて、近隣から毛布、布団や食料などが集められ、寒い思いなどはすることがなかった。	震災後、開始。3月18日完了 ※尾崎地区の児童は、尾崎地区までの道路が通行不能のため、連絡が来るのを待った。	
	④	鶴住居小学校	・児童：2名死亡（休み1名、引渡し後1名） ・事務職員：1名行方不明	・平成23年度3月11日（金）午後2時46分に発生した大地震（後に東日本大震災）により、校舎はすぐに非常扉が閉まり、停電した。防災無線もほとんど聞こえなかったが、津波の襲来に備え、教務主任が、児童を校舎3階に一時避難させる。	・釜石東中学校の避難状況や消防団などの指示から、1次避難場所である「ございしよの里」（広場）に避難する。	・第1次避難場所の裏山（崖）が崩れていることや地域の方の助言で避難場所を移す。 ・第2次避難場所のやまぎきデイケアサービスへ釜石東中学校生徒と避難する。	19日終了	※職員は市教委から自転車を借用し、近くの避難所巡りをして安否の確認及び健康観察をする一方、遠くの避難所は甲子小学校職員の車を借用し、安否確認及び健康観察を行った。同時に職員の家族の安否確認も行った。	
	⑤	唐丹小学校	・児童：全員無事 ・教職員：全員無事	・平成23年度の唐丹小学校の金曜日の下校時刻は、14時40分。 ・3月11日当日は特別時程で、5校時の終了時刻が14時40分であった。 ・14時46分の地震発生時、1、2年生は教室で帰りの会、3年生以上の児童は体育館での卒業式練習を終え、教室へ移動中であった。	・児童は教職員の指示に従い、危機管理マニュアルで定められた児童昇降口前に避難・集合ではなく、落下物などの危険がない校庭に避難・集合した。 ・校庭で児童全員の安全を確認し、高台にある神社への避難指示を出した。	・津波襲来時の唐丹小学校の避難場所は、近所の高台にある天照御祖神社の駐車場となっている。 ・校庭に集合した児童・職員は、校舎脇にある避難路に集合した時、道路を挟んで隣接している児童館の子どもたち・職員と一緒に、避難場所を目指した。 ・避難訓練時は、1年生から順に避難路を上っていくのであったが、担任団のできるだけ早く安全な場所へ全員を移動させるという判断で、体力のある6年生を先頭に下学年が続くという避難方法を取り、避難場所には、15時前に全員が到着した。 ・避難場所には地域住民や大村技研の社員などが大勢避難していた。また、ここで、防災行政無線で大津波警報が発令されたことを知った。 ・かなり大きな余震が断続的に続くので、子どもたちは学年ごとに担任と一緒にまとまっているようにした。 ・市教育委員会に児童が全員避難したことを携帯電話で連絡しようとしたが、電話は通じなかった。 ・日が暮れると、寒さが厳しくなり始めた。本来であれば、社務所で一晩過ごすところがあるが、余震がひどく、室内にいないことが安全でないことと暖房器具がそろっていないことから、保護者と相談し、薪を焚いて暖を取った。	・避難所で暖を取っている間に、消防団関係者が集まり、今晚の宿泊所について相談した。幼い子どもたちには野宿は無理なので、荒川地区集会所に宿泊することになった。本校の児童・職員、児童館の子どもたちと職員がスクールバスや軽トラックなどに分乗し、集会所に向かったのは、17時過ぎであった。 ・集会所では、児童は余震と不安からほとんど眠れなかったようだが、食事（おにぎり）が取れ、暖も取れたことは幸いであった。 ・翌12日の午前中までに、全ての保護者が集会所に児童を迎えに来ることができた。そして、職員は昼前には避難指定場所である神社に戻った。	12日終了	74名の児童は全て学校にいたため、安否確認の必要はなかった。 ※大石地区・花露辺地区は道路が寸断されたため、15日以降、職員が各家庭へ避難所に行った。

東日本大震災における学校・子ども関連施設の震災対応状況一覧表（小学校・中学校）

区分	No.	学校名	1)被害状況	2)避難行動				3)安否確認活動と保護者への引き渡し	
			人的被害状況	地震発生直前の状況（避難行動）	(1) 初期行動	(2) 1次避難行動	(3) 2次避難行動	引渡し	安否確認
中学校	①	釜石中学校	・生徒：全員無事 ・教職員：全員無事	・1、2年生は学活の最中。3年生も下校前で残っていた生徒が校舎内にいた。	・各自の教室で、揺れがおさまるまで机の下に隠れて様子を見る。 ・3年生の多くが下校していたが、自身の適切な判断で高台に避難した。また、帰宅途中の生徒は、学校へ引き返すなどの行動を取った。	・放送機器が使えないため、職員室にいた職員が手分けして各階に走り、校庭に避難するように指示した。校庭に集合後、学級ごとに整列して点呼、名簿にチェックした。 ・校舎内にいた1、2年生はなされた。既に下校した3年生のうち、臨海部の学区の生徒は下校途中、又は自宅にいたはずだった。	・地域住民の方の「五の橋まで津波が来た」の情報で「八雲神社（大天場山の頂上）」へ駆け足で避難したラジオで情報を得ながら待機する。		
	②	大平中学校	・生徒：なし ・教職員：なし	・帰りの短学活が終わり、1・2年生は部活動へ、3年生は卒業式の合唱の練習を始めようとしていた時に地震が来た。	・揺れの強さと長さから、どこからともなく「早く出る」「校庭へ出る」と叫ぶ声が校舎中に響き、とにかく安全な場所へと考えて、校庭へ避難させた。	・地震の揺れが収まりつつある中、防災行政無線で「大津波警報」が発令され、「生徒を帰宅させない。（保護者に直接引き渡す）」ことを決定し、体育館へ避難させることとした。 ・長期戦になるかもしれないと考え、防寒対策のために校舎内の毛布などをかき集め、飲料水の確保を指示。体育館に柔道用の畳とマットを敷き、生徒を入れる。			震災後、開始。発災3日目までに完了 ※欠席・早退の生徒4名と外勤中だった職員2名については、発災翌日に確認した。
	③	釜石東中学校	・生徒：1名死亡（休み） ・教職員：全員無事	・地震発生時、帰りの会が終わった頃で、1年生はまだ担任と3階の教室にいた。 ・2年生は既に部活動の準備で教室を離れ、3年生は2日後に迫った卒業式の準備や帰宅するところであった。	・地震発生後、副校長が校内放送をしようとしたが停電のため校内放送が使えなかった。しかし、生徒たちは自主的に避難を始めていた。そこで、グラウンドに避難し始めていた生徒に向かって、副校長が「走れ！ 点呼取らなくていいから」と叫んだ。職員室にいた一番若い先生には、「率先避難者になって走って」と頼んだ。担任は生徒とともに走らせた。副担任は校舎内を見て回り、逃げ遅れた生徒がいないかをチェックした。 ・鶴住居小学校では、校舎3階に児童を避難させていたが、中学生が「津波だ」「逃げろ」と叫びながら走るのを見て、校舎を出て、同じように「ございしよの里」を目指して避難を始めた。	・生徒たちは校舎外に全員避難し、点呼もとらず、直ちに第1避難場所のございしよの里に向かって走り出した。 ・ございしよの里には、避難した時のための「学級札」を置いていた。先に着いた生徒や教員が学級札をかざし、ばらばらに避難してきた児童生徒たちは素早く整列し、点呼をとり全員の無事を確認することができた。 ・安心したのも束の間、この場所も危ないとの判断で、更に高台にある介護福祉施設（やまざきデイサービス）へ避難が可能かどうか、教員を走らせて確認した。教員が高台からOKサインを出すのが見えたので、避難を開始した。中学生は小学生の手を引いて、声をかけて励ましなが避難した。小中学生が避難するのを見た近隣の人も、避難を始めた。 ・校長は、外出先に向かうため車を運転中であつたが、地震発生後にすぐに学校に引き返した。学校に到着した後、副校長から全員避難したという報告を受けた。その後、副校長を避難させ、校舎をもう1回見てくると、校舎の見回りを行った。見回って1階に下りてくると、保護者が学校に駆けつけていた。全員避難したことを伝え、一緒に避難した。	・全員、2次避難場所の介護福祉施設（やまざきデイサービス）に到着した。列の後ろに並んだ生徒が駐車場から振り返ると、津波が鶴住居の町を飲みこんでいく様子が見えた。間もなくここまで津波が来る、と誰もが感じた。 ・教員の一人が目の前にいた生徒たちに「逃げる」と叫んだ。他の教員の「死ぬぞー走れー」と叫ぶ声も聞こえた。副校長は、最後尾から「走れー、走れー」と言って走った。全員で更に高台を目指した。 ・恋の峠の手前に急な坂があつた。幼い子ども2名の手を引く母親に気づいた生徒が1名をおぶった。一部の生徒たちは、保育所の子どもを乗せた手押し車を職員に代わって押しながら坂を上った。 ・先ほどまで避難していたございしよの里が水没したのは、全員が離れてから約5分後のことだった。最終的に恋の峠まで避難し、学校から避難した生徒、教職員は全員無事だった。 ・学校に残り遅れて避難していた校長も合流し、無事が確認できた。	3月16日終了	
	④	唐丹中学校	・生徒：死亡1名（帰宅後） ・教職員：全員無事	・地震発生時は帰りの会終了後であり、下校した生徒（15名）と学校にいた生徒（47名）の状態	・中学校は市指定拠点避難場所であり、当初は校庭に避難したが、大津波警報が発令され、「ここも危ない」との連絡が入り、学校にいた生徒47名と職員10名はさらに高台の国道45号の道路まで、地域住民とともに全員避難 ・唐丹湾に津波が押し寄せる様子を、避難した国道45号沿いで見守る。強い余震も続く。（津波は、学校入口の住宅1階付近まで押し寄せ、学校への入口道路は寸断された。） ・津波の様子をうかがいながら、職員が交代で学校へ必要な物を取りに戻る。 （毛布、防寒着、シート、生徒の家庭連絡名簿 ほか）	3月11日 17:00頃～ ・余震が続き、学校には戻れない状況から、すぐ近くのNTT工事事務所に移動し、中学校の臨時避難場所として借用（当初の避難者数：生徒 約40名、職員10名） ・地震の様子をうかがいながら、職員が交代で学校へ必要な物（暖房、炊事用品）を取りに戻る。 （ラジカセ、ライト、石油ストーブ2、灯油2、鍋、食器類、保温ポット、コーヒーほか） ※金庫施錠：出席簿など収納、職員室施錠（停電でセコムはセット不可） ※ラジカセ持ち出すが、電池不足で民家から提供あり ・職員は各自、車を45号沿いへ移動。小白浜は不通のため、国道へつながる細い道路を通行 ・校長は、体育館入口に住民数名が避難していることから、住民とともに宿泊 職員は、生徒とともに避難所に宿泊（避難所が狭く、生徒・職員の一部は車内に宿泊） 3月12日 ・朝の時点で、中学生20数名 ・午前、校長から今後の対応について次のとおり指示。（職員への確認事項） ①避難所にいる生徒全員を家庭に引き渡した後、各自家族の安否確認のため、自宅・実家などへ。 ②余震が続き危険な状態が続いているため、安全が確認できるまで当分の間、学校を閉鎖とする。 （卒業式は無期延期） ※生徒個々への連絡は難しいため、連絡できる生徒からの伝言などで。 ③今後の出勤は、状況に応じて。 ※校長は3/15～18まで学校待機の予定 ※職員は往復の燃料を確保し、各自の家庭の状況などにより出勤できるときに。 ④今後の対応は、連絡が取れる職員で連絡しあつて対応（入試対応などを含む） ・校長、副校長、用務員で校舎と体育館の被害状況を確認 ・小中職員5名で亡くなった生徒の自宅へ弔問	3月13日 ・残りの中学生4名が避難所の民家に移動し、避難所にいた中学生は全員家庭などへ引渡し完了 ※ NTT関係者は事務所から撤退し、NTT工事事務所の臨時避難所は閉鎖 ※ 地域住民は近くのいきいき唐丹福祉センターなどへ。（体育館入口に避難していた住民も。）		